

報道関係 各位

株式会社アドバンテスト

2009年 丸山社長 社員向け年頭所感(要旨)

## 『飛躍への礎づくりを』

新年、明けましておめでとうございます。

「100年に1度の経済危機」といわれるこれまで経験したことのないこの冬の到来に際し、企業として守りを固める必要があると思います。こういうときにこそ、積極的にお客様を訪ね、新製品開発の手を緩めることなく、品質、コスト、納期を重視したものづくりを忠実に持続しなければなりません。今後、本格的な企業淘汰と選別が行われると思われ、景気が回復したときに他社を大きく引き離すための足元固めと様々な課題への挑戦が不可欠です。そこで、2009年の年頭に当たり、何をなすべきか今年度の四つの課題について考察してみたいと思います。

第一の課題は、「**市場にイノベーションをもたらす新製品の開発**」です。我々のビジネスに関係する半導体産業の分野では、半導体が使用される製品分野の広がりから新しい性能や機能が要求される一方で、これまで一部の高付加価値製品に向けた高価な半導体の比率が相対的に縮小し、幅広い生活品に使用される半導体が増加しています。すなわち、半導体は、これからの中核産業を支えるために、より一層の高度化が要求される一方で、コモディティ化による価格破壊を同時に経験する状況にあるということです。コモディティ化により、半導体を使い捨て商品と勘違いする説もありますが、むしろ、半導体の高度化と生活への密着により一層の品質保証が高まるものと思います。従って、今後の半導体試験装置分野における課題は、高性能・高機能化と大幅な価格低下という二律背反の状況に対して、どのようなイノベーションをもたらすことができるかだと思います。

第二の課題は、「**全分野に於けるマーケットシェア No.1**」です。これまでの成功体験を捨て、今までのビジネスの仕方を見直す必要があると思います。この厳しい環境、変化の時代にあって、何が大切なのか、メモリの分野と SoC の分野を問わず、テストもハンドラもまたその他周辺機器の分野でも、全てにおいて No.1 を追いつける気骨、また、勝ち続ける気概を持ってください。

第三の課題は、「**QCD に対する強い意識と実践**」です。昔から、ものづくり企業にとって基本となっている QCD をもう一度しっかりと考える必要があります。最初の「Quality」は、製品だけの話ではなく、開発、購買、生産、出荷、販売のあらゆるプロセスに渡り、全ての業務の品質を指しています。そのいずれでも僅かな見落としによる問題がムダを生むということを強く意識してください。次に「Cost」については、市場の大きな流れの変化を意識する必要があると思います。技術のイノベーションは、価格に変革をもたらし、一旦、マーケットに受け入れられると、一気にその量は増大します。つまり、技術イノベーションが、その需要構造を大きく変えるということです。我々はその状況をしっかりと意識し、強いコスト・コンシャスネスを持たなければならないということです。最後の「Delivery」は、お客様への製品の納期となります。これまで後補充生産の推進による工期短縮、納期短縮を実践してきました。加えて、新製品の計画通りの、いや1日も早いデリバリも大切です。会社をぐんと伸ばす鍵は、3 年先を見越した製品の開発力にあります。「先んずれば人を制す」です。3 年後に顧客の現場における半導体試験工程がどのような方向に向かうべきか、そこにどのような製品とサービスを提供すべきか、しっかりとマーケティングし、それに対するソリューションの早期開発、必要な時期での市場導入が重要と思います。

最後の課題は、「**新規事業の強化**」です。どんなに優れたアイデアや技術・商品でも、正しく伝わらないと、理解されませんし、買ってはくれません。具体的な形にして市場に問わなければ、伝わらないし、意見を聞くこともできません。新しいことに挑戦している研究者や技術者にお願いしたいことは、今まで思い描いたことを現実化するための一歩を踏み出して欲しいということです。

2009 年、課題は山積みです。未来の回復時期に向け、今すべきことを着実に実践し元気を出して課題を解決していきましょう。

そこで、2009 年の「本質を究める」のスローガンを、

「飛躍への礎づくりを」

Laying the Cornerstones of the Future

とします。